

大学史資料館館長ご挨拶



大学史資料館館長
人間文化研究科 教授

山田 美香

どの大学にも大学史資料館があります。大学史資料館は、大学を問い直すために意義がありますが、現在に限ったことではなく、大学の社会や人類への「貢献」は社会の要請によって盛んに謳われてきました。名古屋市立大学は1950年に創立されました。年代ごとの名市大の意義を振り返ることは、人々や名古屋市が大学に何を求め、その結果、どのような時代が次に到来したのかを確認する作業でもあります。

私は教育史が専門です。理想とすべき教育の姿を構想し、それに対して過去の教育

状況をどのように理解すべきなのかを考えてきました。ここ10年、20年でアジアには膨大な数の大学が設立され、すべての大学は社会や人類への貢献を目的としています。アジアにおける大学の位置づけも大きく変化するなかで、日本の大学の存在意義が問われています。私は、専門領域であるアジアの教育状況から、大学史資料館とともに名市大の今後を考えていきたいと思えます。

名古屋市立大学大学史資料館シンポジウムを開催しました

令和5(2023)年12月24日(日)に、本学在學生・卒業生・教職員、一般の方を対象に、オンラインにて大学史資料館シンポジウムを開催しました。開学から名古屋市立大学を築き上げてきた学部・研究科にスポットを当てる企画の第一弾として、人文社会学部・人間文化研究科を取り上げ、シンポジウム前半では、後藤宗理本学名誉教授・椋山女学園大学前学長、吉田一彦本学高等教育院特任教授、佐藤美弥本学大学院人間文化研究科准教授に、人文社会学部・人間文化研究科の過去・現在・未来についてご講演いただきました。後半には、山田美香本学大学史資料館館長・大学院人間文化研究科教授のコーディネートのもと、ご講演いただいた3名の先生方をパネリストに迎え、「人文社会学部の歩み」と題したパネルディスカッションを行いました。シンポジウムには、31名の方にご参加いただき、アンケートには当時を懐かしむ声も寄せられました。

本シンポジウムの動画は<https://www.nagoya-cu.ac.jp/archives/>にて公開しておりますので、ぜひご覧ください。



左から山田先生、後藤先生、吉田先生、佐藤先生



当日の様子

名古屋市立大学の沿革・3 ～医学部の発展～

医学部は、昭和25(1950)年の名古屋市立大学設立以来、基礎医学部門が瑞穂区田辺通(現 田辺通キャンパス)に、臨床医学部門と附属病院が瑞穂区瑞穂通(現 名古屋市博物館)に置かれていました。医学部および附属病院の川澄キャンパスへの移転は、昭和33(1958)年よりはじまります。



昭和22年 田辺地区医学研究棟



昭和22年 川澄地区建物

川澄キャンパスの地は、もともと名古屋高等商業学校(1944年に名古屋経済専門学校と改称)を母体とする名古屋大学経済学部のキャンパスでした。当時の名古屋大学は、名古屋市内およびその近郊に複数のキャンパスを持つタコ足状態であり、川澄キャンパスもそうしたキャンパスの一つでした。この状況を解消するため名古屋大学は、キャンパスを東山地区(現 名古屋大学東山キャンパス)に移転させる計画を進めますが、その中で、昭和32(1957)年7月、名古屋大学と名古屋市との間に「土地建物等の交換」に関する契約が結ばれました。名古屋大学経済学部の移転は昭和34(1959)年3月に完了し、川澄キャンパスにおける本学医学部の基礎医学館の改築工事は、名古屋大学経済学部の移転を待たずに始められ、昭和33(1958)年9月に基礎医学南館、翌34(1959)年6月に基礎医学北館、昭和36(1961)年3月には講義室と実習室の基礎医学館の改築工事が完了しました。さらに昭和39(1964)年4月には、附属病院の新設工事も始まり、同41(1966)年11月に新病院が完成、附属病院が移転。看護学校は少し遅れて昭和43(1968)年3月に移転し、昭和33年に始まった医学部及び附属病院の川澄キャンパスへの移転は完了しました。

名古屋市立大学が成立した昭和25年時の附属病院は、第1内科・第2内科・第1外科・第2外科・整形外科・小児科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・神経科・放射線科・歯科の14の診療科を擁する病院であり、病床数は350床でした。その後、昭和27(1952)年に病床数が360床になりました。

昭和32(1957)年4月、それまで副院長だった吉田義治氏が病院長に就任し、同年5月には病床数が390床に増え、さらに7月には総合病院として認可されました。昭和36(1961)年12月には、病床数を増やして512床となりました。

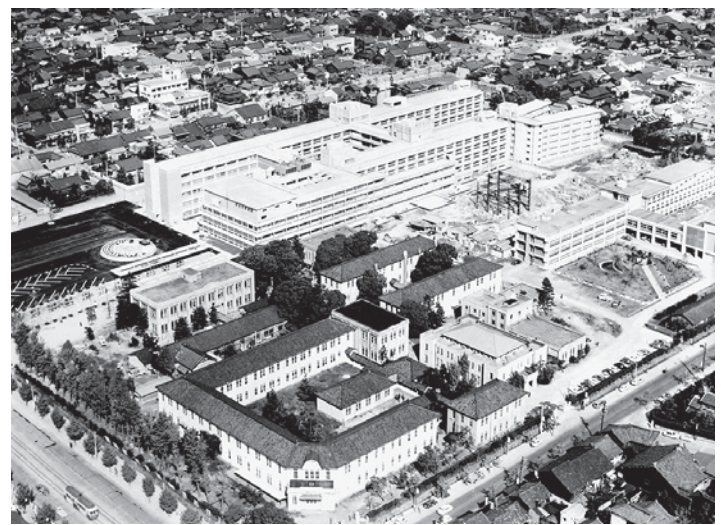
昭和41(1966)年11月、新病院の建物の完成を受けて、附属病院は瑞穂区瑞穂通(現 名古屋市博物館)から川澄キャンパスに移転し同時に総合病院としての認可を受けました。新病院では、先述した14の診療科に、麻酔科が加わって15の診療科を擁し、病床数が624床に増え、より規模が大きくなりました。また昭和44(1969)年3月にはRI病棟が開設され、10床が追加されました。

その後も病院の設備・診療体制は拡充していきました。昭和44(1969)年7月に集中治療室(ICU)が設置されたのを皮切りに、昭和61(1986)年までに、人工腎室、分娩部、内視鏡室、病理解剖室、急性心臓疾患治療室(CCU)、医療情報部、新生児集中治療室(NICU)、管理部情報処理室が次々と設置されて

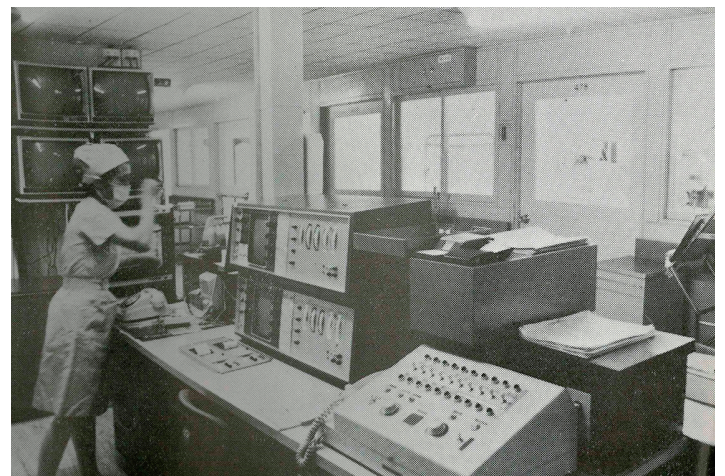
いきました。また昭和53(1978)年4月、第3内科と脳神経外科の2診療科が増設、神経科が精神科に改正され、昭和57(1982)年に理学療法部をリハビリテーション部に、人工腎室を人工透析部に改正し、診療体制がより充実していきました。また、昭和61(1986)年には、リニアック(放射線治療装置)、磁気共鳴診断装置(MRI)による診療が開始され、診療設備も充実していきました。昭和54(1979)年3月には院内保育所が完成しました。

病床数は、昭和56(1981)年5月に新棟増築工事が終了して、新たに280床が増え、計914床となりました。ただし、昭和58(1983)年、結核病棟とRI病棟が廃止となり、病棟の再編成が行われて病床数は計808床となりました。

このように、附属病院の診療体制・設備は段階的に充実していき、こうした発展は平成、令和時代においても順調に継続し、今日に至ります。



附属病院全景



集中治療部

参考文献

- ・名古屋市立大学医学部同窓会『名古屋市立大学医学部創立40周年記念誌』1986年
- ・神谷智『名大史ブックレット2 名古屋大学キャンパスの歴史1(学部編)』名古屋大学学史資料室、2001年
- ・「名古屋市立大学病院 沿革」(<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/history/>)

授業連携として、学生より大学史資料館の展示品の感想をいただきました

名古屋市立大学と名古屋の教育史の一端を学ぶという趣旨で、大学院人間文化研究科准教授佐藤美弥先生担当の講義（人文社会学部「名古屋学1（名古屋学入門）」第1回、令和5（2023）年4月14日）の中で、大学史資料館の見学が行われ、学生から展示の感想をいただきました。感想を抜粋して紹介します。

※感想は誤字訂正など修正を加えた場合があります。



<大学史資料館展示見学の様子>

沿革について

医学部の前身が女子校で、戦争中の医師不足に対応するため、女性医師の養成を目的に開講したという背景にも驚きました。今の時代の日本では、学校に通う一番の目的は、正直「良い企業に就職するため」である人がほとんどであると思います。また、自分の好きなこと、興味のあることを学ぶためであるという人もいるでしょう。どちらにせよ、戦争中で人手不足になるから国のために学ぼうと思っている人は1人もいないでしょう。今の時代に生まれて、学ぶ機会を自由に得ることができることは、すごく幸せなことだと改めて感じました。

八高古墳について

八高古墳が古墳時代前期の名古屋台地を代表する首長墳であり、ヤマト王権と尾張の政治的変動を象徴する古墳であるとは全く知らなかったので大変驚きました。今まで古墳が滝子キャンパスにあるとは知らず、ただの木が生い茂っている場所と認識していたので、重要な歴史的資産も身近に隠れていると思うと、もっと周りを見て見逃さないようにしていきたいなと思いました。

学生歌について

名市大に学生歌があったことに驚きました。他の学生も学生歌の存在を知らないと思うので、学生歌を聞ける機会を設けて欲しいと思いました。そうすることで、もっと自分の大学に誇りを持ち名市大生である自覚を持つことに繋がると思います。展示を自ら見ようとする機会がなかったため、授業中にこのような機会をいただけてよかったです。

国際交流について

留学経験者からのメッセージや国際交流校協定一覧があったりと面白そうなことも書いてあることに気がきました。留学経験者からのメッセージの欄では、自分も留学をしてみたいという気持ちもあり参考になりました。今までは、どのような派遣プログラムがあり、どのような留学生を求めているのかということについて分からないことがありましたが、大学史資料館の国際交流の部分を見ることによって、名市大と他の大学の繋がりを知ることができました。



佐藤先生からのコメント

大学史資料館の展示をぜひ学生に見てもらいたいと考え、授業に取り入れました。大学の歴史やかつての学生生活、キャンパスのなかにある八高古墳などについて学ぶことは学生にとって新鮮な体験になったようでした。名市大についてより深く学ぶ（自校史を学ぶ）ことは、学生をはじめ、教員や職員を含めた名市大のメンバーが大学やキャンパスへの愛着を深め、また名市大で学ぶ意義を確認する機会になるものと思います。その意味で、大学史資料館は学外への発信と同時に学内のメンバーにとっても重要であることを再認識しました。

いただいた新鮮な感想を今後の大学史資料館の充実のために活かしていきたいです。

展示品の紹介

初代学長 戸谷銀三郎氏の功績

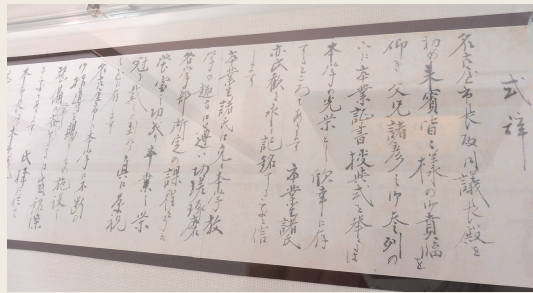


戸谷銀三郎氏(1883~1970年)は、愛知県名古屋市東区飯田町に生まれ、愛知県第一中学校を卒業後、京都の第三高等学校、次いで京都帝国大学医科大学に進学し、明治41(1908)年1月に卒業されました。同44(1911)年南満州鉄道(満鉄)に入

社し、大連病院に内科医長として勤務、兼任で奉天の南満医学堂にも勤務されました。

大正2(1913)年、満鉄よりドイツ留学を命じられ、同3(1914)年よりドイツのフライブルク大学、イギリスのケンブリッジ大学に留学して帰国し、再び奉天の南満医学堂にて教授として勤務されました。大正8(1919)年大連病院の勤務に戻り、同14(1925)年には大連病院院長に就任されました。昭和5(1930)年、大岩勇夫名古屋市長から要望され、名古屋の市民病院の院長就任を受諾して帰国し、翌6(1931)年7

月、名古屋市民病院の開院とともに院長として勤務されました。以後、名古屋市の医療の充実に種々の貢献をされ、名古屋市立女子高等医学専門学校が創設されるにおよび、昭和18(1943)年3月より同校校長を務めるかたわら名古屋市民病院の附属病院長を務め、昭和22(1947)年より名古屋市立女子医科大学の学長、昭和25(1950)年から昭和32(1957)年まで名古屋市立大学の学長を歴任されました。大学史資料館では、初代学長戸谷銀三郎氏の功績を回顧し、関係資料や直筆の草稿を展示しています。



戸谷銀三郎氏直筆式辞(昭和29年3月25日名古屋市立大学卒業式)

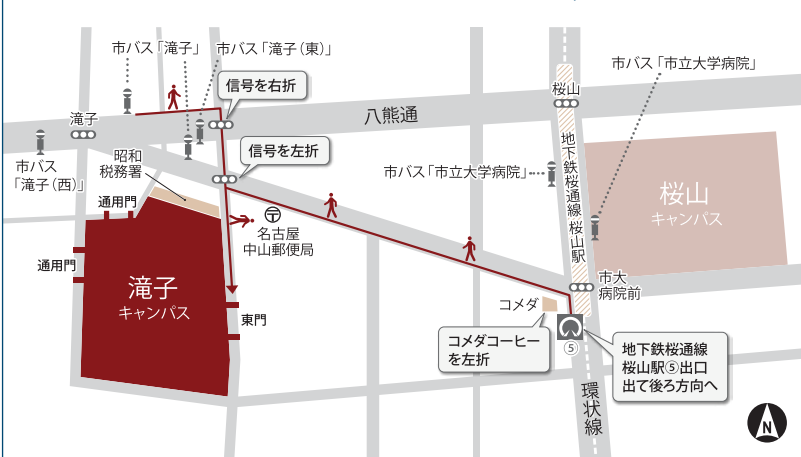
参考文献

- ・戸谷銀三郎「回想録」『現代医学』10-1、1962年
- ・戸谷銀三郎・守屋博「我が最初の高層病院—満鉄大連病院のこゝろ—」『病院』13-3、1995年
- ・戸谷銀三郎・戸谷千代子著、戸谷徳潤・戸谷敏子編『志の届くさ:父戸谷銀三郎母戸谷千代子の足跡』戸谷徳潤、1990年

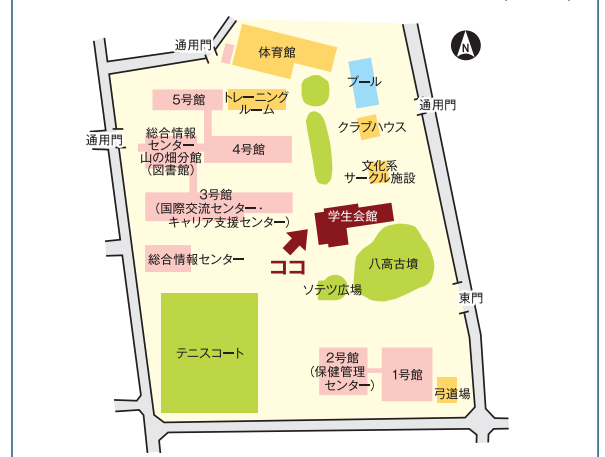
利用のご案内

■開館時間 / Opening hours 平日 9:00~17:00 / Weekdays 9:00-17:00

■滝子キャンパスまでのアクセス図 / Direction to Takiko Campus



■名古屋市立大学大学史資料館への行き方 / Campus Map



〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1
名古屋市立大学 滝子キャンパス学生会館2階
1, Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku,
Nagoya-city, 467-8501
Nagoya City University Takiko Campus

ACCESS

- 地下鉄 / Subway ・桜通線「桜山」駅下車5番出口より徒歩12分
12 min on foot from Exit 5 of "Sakurayama," Sakura-dori Line
- 市バス / City Bus ・金山駅 金山7番のりばより金山11・12・16「滝子」下車
Take "Kanayama Route 11, 12 or 16" bus at Kanayama Depot 7, and get off at "Takiko."
・金山駅 金山8番のりばより金山14(桜山経由)「滝子」下車
Take "Kanayama Route 14 (via Sakurayama)" bus at Kanayama Depot 8, and get off at "Takiko."

NCU Histreet No.003

発行月:2024年3月
発行元:公立大学法人名古屋市立大学大学史資料館
〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1
TEL:052-872-5796 FAX:052-872-5781
URL: <https://www.nagoya-cu.ac.jp/archives/>